

2022 AUTOBACS SUPER GT Round 1 OKAYAMA GT 300km RACE

2022年4月16日(土)

予選 レポート



場所:岡山国際サーキット (岡山県) 1周 3,703m 観客動員数:6,600人

天候:晴れ | コース:ドライ | 気温/路温 Q1 開始 17°C/21°C Q2 開始 16°C/27°C

渾身のアタックでポールポジション獲得

2022年 SUPER GT シリーズは、ここ岡山国際サーキット(岡山県)で開幕戦を迎えた。JAF-GT300車両は性能調整によりエンジン出力性能が抑えられ、シーズンオフテストでは FIA-GT3勢の上位が目立っていた。#61 SUBARU BRZ R&D SPORT は昨シーズンのマシンをさらに進化させ、井口卓人と山内英輝と共に1年間を戦う。公式練習時には昨日降った雨も乾き、ドライコンディションでマシンのバランス確認を行い、予選を迎えた。



4月16日(土)

<公式予選 Q1 A組/ 14:00~14:10>

今年もQ1はA組・B組の2組に分かれて実施され、各上位8台がQ2へ進出する。まずはQ2へ繋げるための重要な役割であるQ1を井口が担当する。公式練習でシミュレーションしたとおり徐々に



www.rdsport.net

ペースを上げ、計測3周目にアタックし1分25秒748、更にアタックを続け1分25秒321までタイムを上げ5番手でQ1を通過する。



<公式予選 Q2/ 15:06~15:16>

Q1でのマシンバランスを井口と話し合い、Q2に向け微調整を行い挑む。Q2を担当する山内は、アウトラップからじっくりとタイヤを温め、計測3周目の渾身のアタックは1分24秒286。コースレコードを大きく塗り替える堂々のトップタイムを叩き出した。ライバル勢のアタックは続くが山内のタイムを上まわることなく、ポールポジションが確定した。なお GT500クラスのポールポジションは#14 ENEOS X PRIME Supra が獲得した。

■澤田監督 コメント



昨年同様の流れで進められれば上位を狙えるだろうと前向きに考えてはいましたが、この予選結果には驚きました。タイヤのマッチングもマシンのセッティングも良い方向でしたが、最終的にそのポテンシャルを両ドライバーが100%引き出してくれました。決勝レースは決して楽な展開ではない事を想定しているので、明日に向けたマシンのセッティング変更などしっかりと準備をします。

予選の詳細に関しては SUPER GTホームページ <https://supergt.net/> 、
またSUBARUモータースポーツマガジン <https://www.subaru-msm.com/2022/sgt/report/> もご覧ください

2022年4月16日
SUBARU BRZ
アールアンドデースポーツ
<http://www.rdsport.net/>



www.rdsport.net